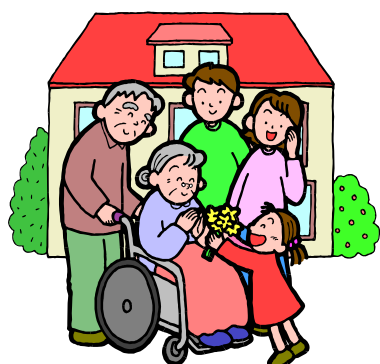


# 岡谷市政の現状と課題

“負のスパイラル”から脱却するために今すべきこと



信州みどりの党 代表 藤森 弘 編著



事務所 〒380-0928  
長野市若里4-15-18 しなのビル1階  
TEL 026(266)7858  
<http://gcp7.net> [fujimori@gcp7.net](mailto:fujimori@gcp7.net)



岡谷市長地在任

みなさん、こんにちは！

「信州みどりの党」の発起人代表の藤森 弘です。

信州みどりの党は、「環境」「平和」「共生」「協働」「自由」「希望」「安心」の7つのキーワードを志向する「庶民派リベラル地域新党」として、5月4日のみどりの日に「結党宣言」を発表して発足しました。

宣言の内容や設立の経緯についてはホームページを御覧ください。私自身のプロフィールも詳しく紹介しています。

<http://gcp7.net>

ここで言う「リベラル」とは、自由主義を基調としつつも、社会的公正（格差是正）のために行政が積極的に関与すべきであるという立場の政治勢力を意味します。「守旧派」に対する「改革派」であった方が分かりやすいかも知れませんね。



もちろん自由と民主主義を基本理念とする現在の政治体制内での「改革」を志向していますから、反体制運動や左翼運動や右翼運動ではありません。社会主義革命や共産主義革命とも無縁です。

「みどりの政治」が目指す方向は、「右」でも「左」でもなく、「前」なのです。

良好な地球環境と平和を次世代に責任を持って受け継ぐことを最重要視していますから、目指すべき方向は「未来」だと言っても良いでしょう。

緑に囲まれた快適な住環境と平和を願う庶民の夢を実現するために、私たちは既存の政党の枠を横断的に超えて連帯する「ネットワーク政治」を目指しています。

「ネットワーク政治」は、言い換えると「対話の政治」であり「和の政治」です。

既存の政党の否定ではありませんから誤解のないようにお願いします。それぞれの政党の持ち味を十分に引き出し、既存の政党間の風通しを良くして、「対話の回路」を大事にしつつ、庶民の暮らしをより良くする知恵を結集することが「ネットワーク政治」の真髄です。

要するに、庶民が暮らす地域社会をより良くするための「旗振り役」であり「つなぎ役」であるような政治を目指しているのが私たちなのです。

それでは、ここで「みどりの政治」の基本原則6カ条を御紹介しましょう。

#### ①「環境（エコロジー）」の原則

私たちが限られた地球の生態系および地下資源のもとで生存していることを自覚し、人類が自然界の一部であることを前提に環境との調和を図り、人類以外の種も含めたすべての生命形態が持つ固有の価値を尊重することです。

#### ②「社会的公正」の原則

地域レベルでも地球レベルでも社会資源や自然資源が公平に配分され、国内および国家間において広がる富裕層と貧困層との格差を是正することです。

#### ③「参加民主主義」の原則

すべての市民が自分の意見を表明する自由を持ち、自分自身の生活に影響を与える環境、経済、社会、政治的意思決定に直接参加できるような民主主義体制を確立することです。

#### ④「非暴力・平和」の原則

これは日本国憲法第九条の精神そのものです。地球規模での安全保障は、軍事力の強化に依存すべきものではなく、たゆまぬ対話の継続による「共生」および「協働」の努力にこそ依存すべきものです。

#### ⑤「持続可能性」の原則

地球上の限られた資源の範囲内で、現在および未来の生活必需品を確保するために、地球規模での消費、人口、資源、貧富の不均衡を是正することです。特に、空気中の二酸化炭素を吸収して酸素を供給する「みどり」こそが地球生命体の「資本」とあるとの認識が重要です。

#### ⑥「多様性の尊重」の原則

地球が多様な生命体の異種共存空間であるとの自覚のもと、自然界を含めた他者の生命を尊重し、人類においては文化的、言語的、民族的、人種的、性的、宗教的、精神的差別をすることがない多様性を尊重することです。

要するに、「みどりの政治」とは、地球に生きる自覚を持ち、自然界を含めた他者の生命を尊重する21世紀の新しい政治のかたちのことです。

そこでは「自他共尊」の政治哲学と地球倫理が通奏低音として常に鳴り響いています。

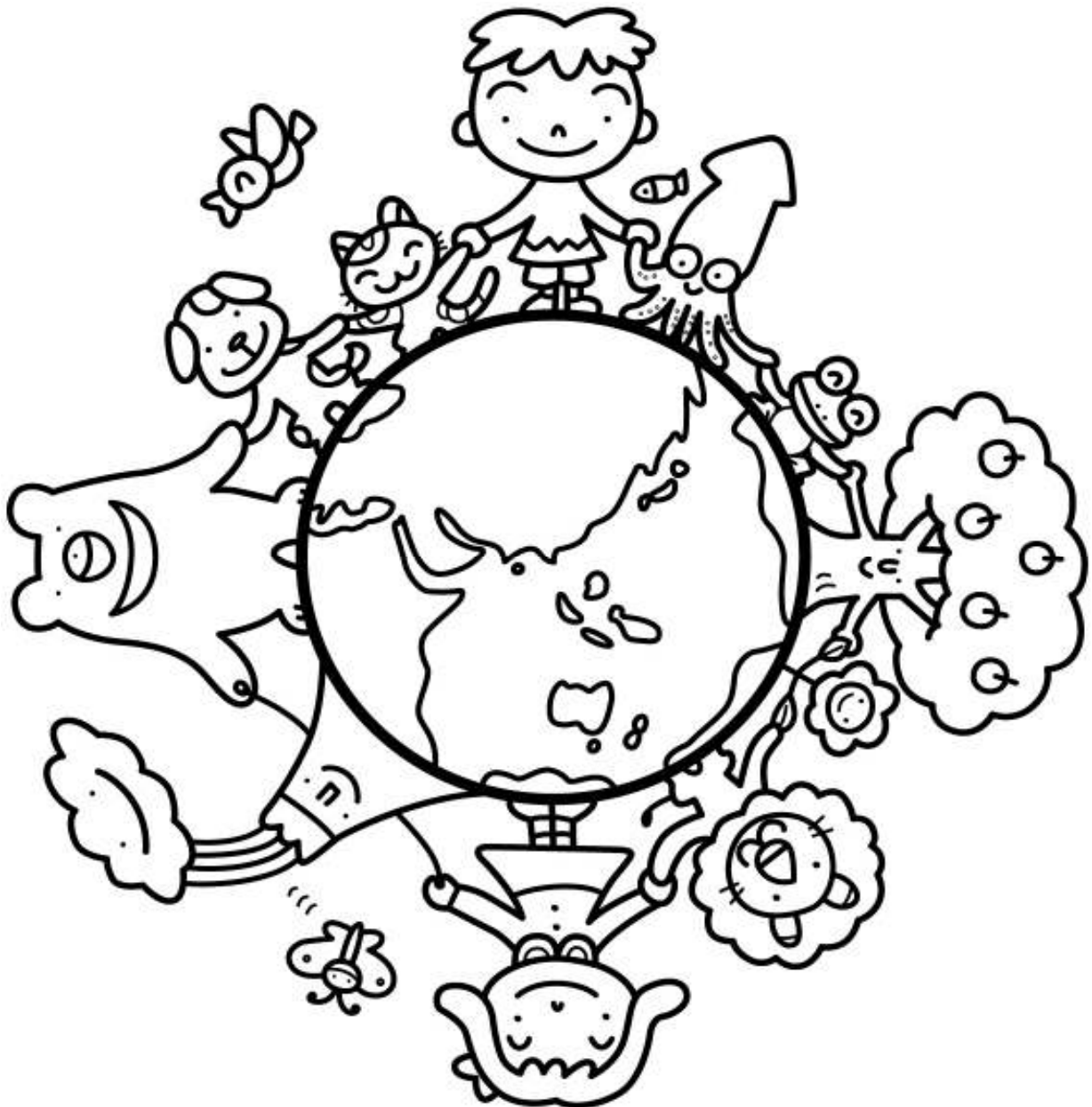


そして、こうしたグローバル（地球規模）な視点を持ちつつも、現実の政治は足元のローカル（地域）から変えていかねばなりません。今、ここで暮らしている生活空間の改善なくして、地球環境の保全や世界平和などあり得ないからです。

ですから「信州みどりの党」は、「地域主権」を重視する政治団体でもあります。

グローバル（global）に考えてローカル（local）に行動することを意味する造語である「グローカル（glocal）」を合言葉にしたいと考えています。新しい政治団体の命名にあたり、私たちが愛する郷土、郷里である「信州」という冠をつけた理由はここにあります。

どうか皆さん。虹色の光と風の交響詩を奏でる21世紀の新しい政治のかたちに御期待ください。

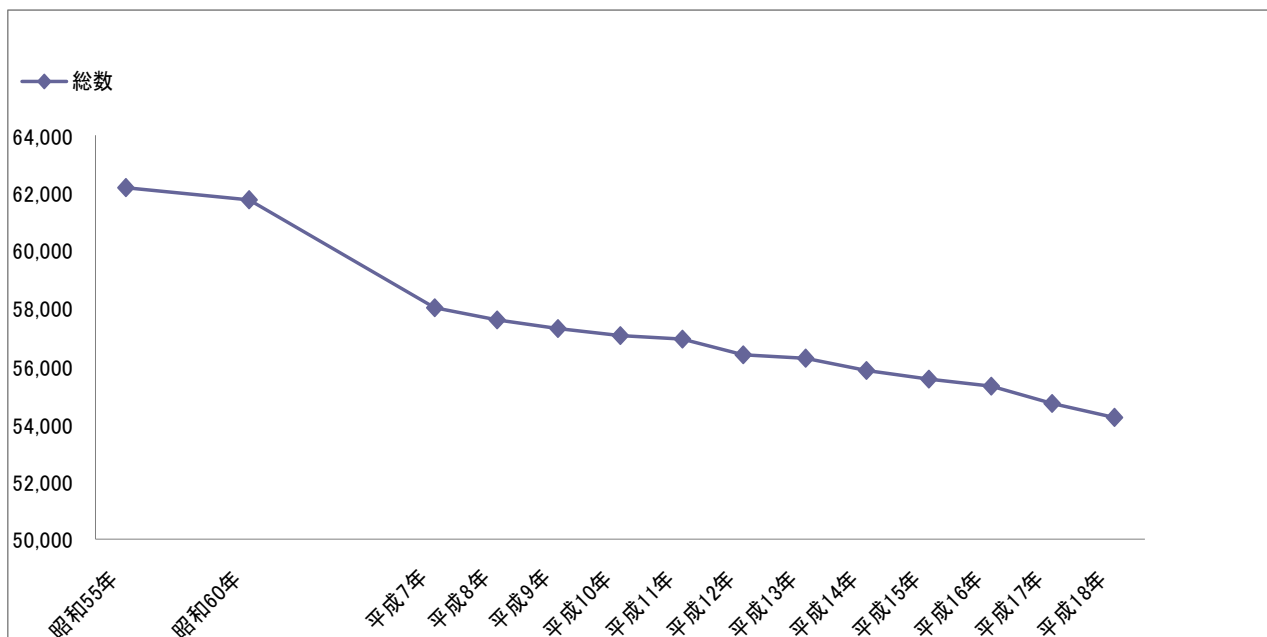


少々「前置き」が長くなり過ぎましたね。申し訳ありません。話を本題に移しましょう。

今回は発起人代表の藤森が暮らしている岡谷市を例にして、現在の政治的課題を考えてみました。まず、岡谷市政の現状を把握することから始めましょう。

次のグラフを御覧下さい。

最初は岡谷市の総人口の推移です。



昭和60年（1985年）から20余年で約12%の総人口が減っています。その減少傾向は残念ながら歯止めがかかっていません。

岡谷市の「可住地人口密度」が県下第2位（第1位は、お隣の下諏訪町です…）という人口密集地であることや、活用可能な土地が狭く少ないこと、全国的な少子化傾向から見ると「やむを得ない」とも言えますが、製糸&精密でにぎわった過去の歴史的経緯と比較すると「寂しさ」を感じざるを得ません。

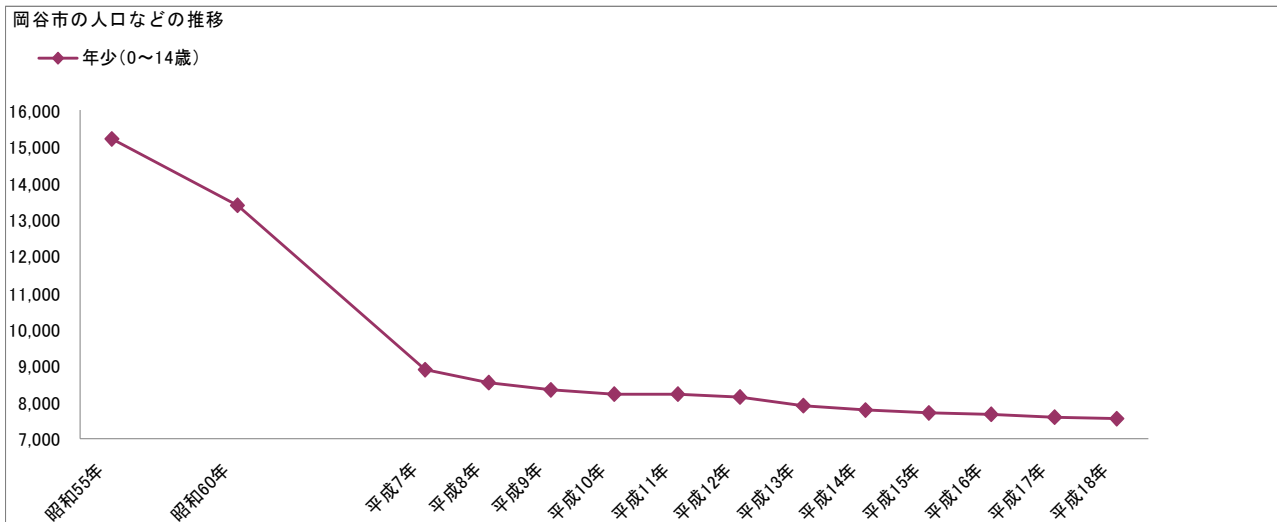
この人口減少現象が全世代にわたって均等に減っていたとしたならば、まだ「救い」があるのですが、岡谷市の場合には典型的な少子高齢化に加えて「生産人口の激減」という大問題に直面しており、若者が流出してお年寄りを取り残される状況に陥っていることが非常に気になります。

皆さんの家の周りで、空き家や老人だけの世帯が増えていると感じませんか？

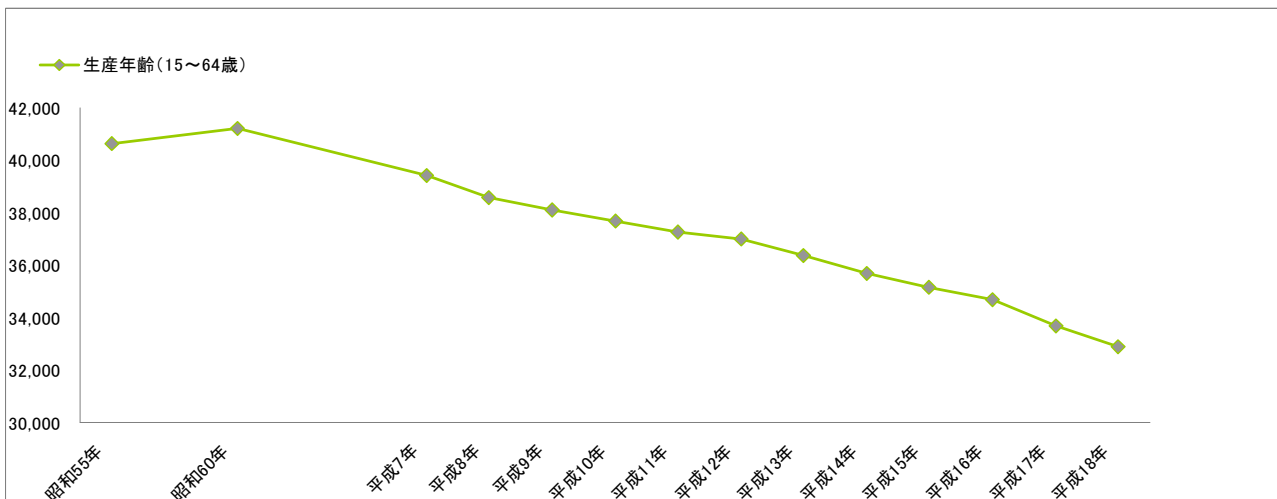


各世代別の人口の推移は以下の通りです。

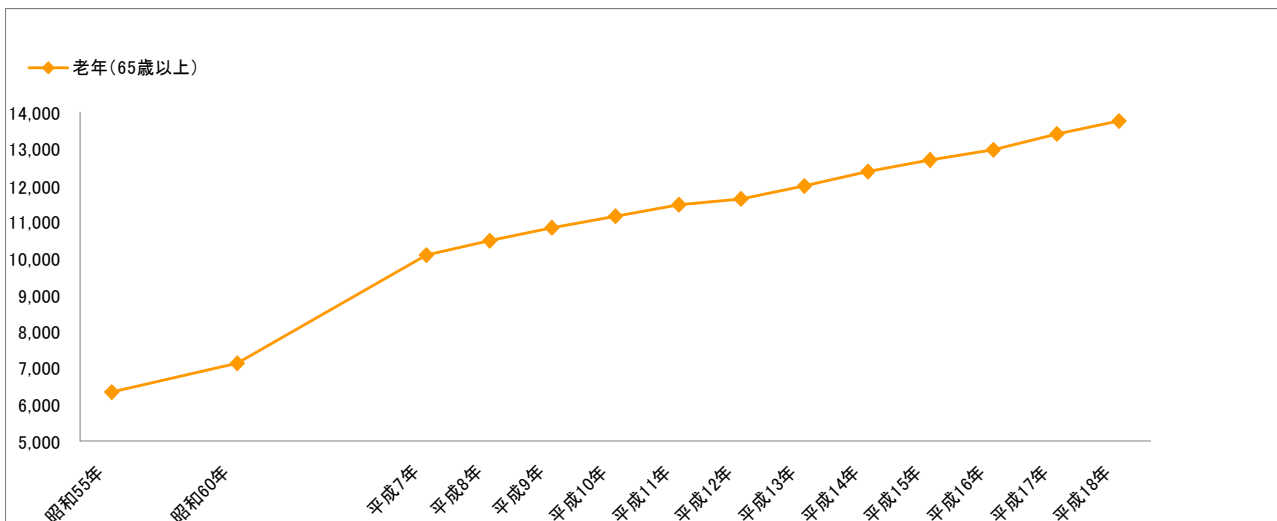
### 子供（0～14歳）の人口の推移



### 生産者（15～64歳）の人口の推移



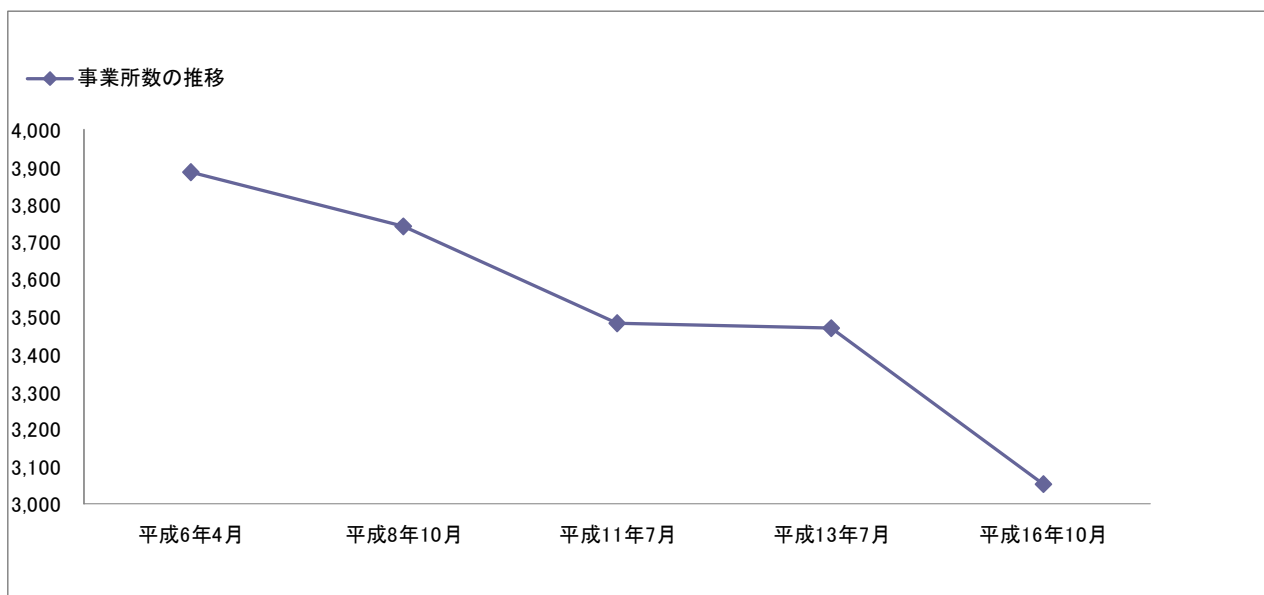
### お年寄り（65歳以上）の人口の推移



20余年で子供の数は半減、お年寄りの数は倍増、屋台骨である生産者は20%余の急減という現実を直視しなければ、「岡谷市政の現在」が語れないことがお分かりいただけると思います。

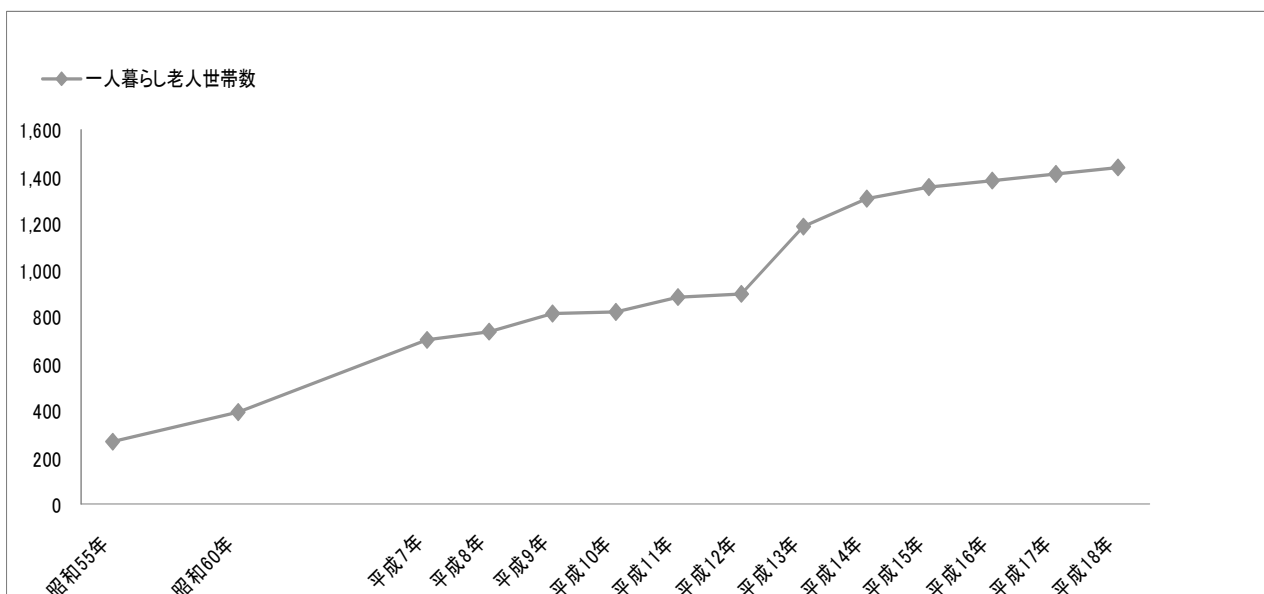
生産者人口の急減は、当然のことながら市内の事業所数の減少傾向とも呼応しています。

### 岡谷市内の事業所数の推移

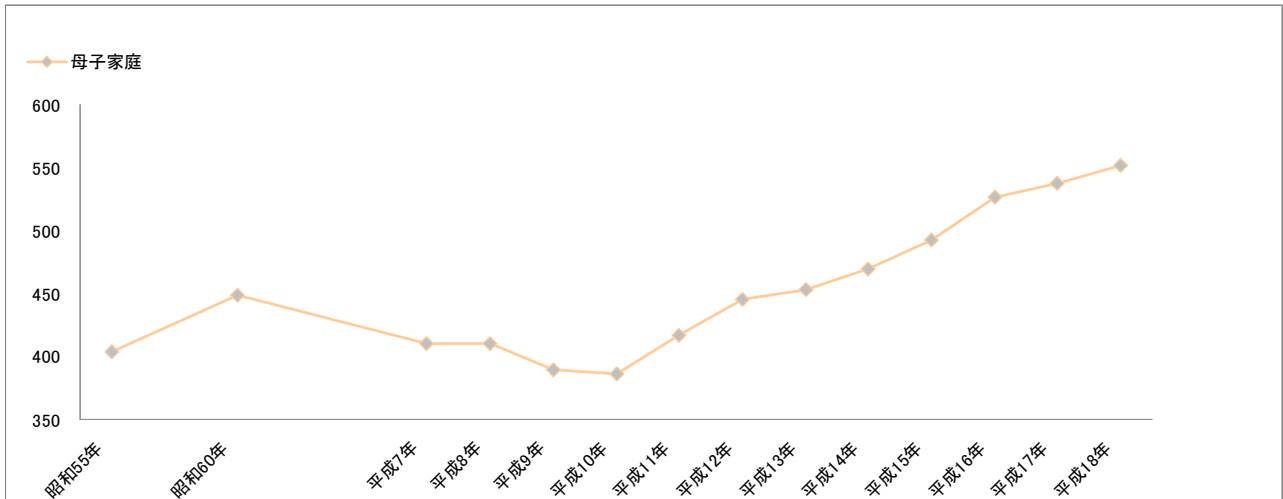


また、岡谷市政の特記事項として、一人暮らし老人の世帯数が急増していることや、母子家庭の数が増加傾向にあることも注視しなければなりません。これらの世帯の暮らしを守り、「安心」して生活できるようにすることは、まさしく行政の責任にほかなりません。

### 一人暮らし老人の世帯数の推移



## 母子家庭世帯数の推移



これらのデータから言えることは、岡谷市は完全に“負のスパイラル（＝悪循環）”に陥っているということです。

事業所数が減ったことで若者の働く場所が減る→購買層（物を買う人）が減ることで事業所や商店の経営が厳しくなり郊外や市外に流出→街の魅力が消失→若者の流出に拍車がかかる…。

若者が都会に出て行ってしまふ→お年寄りが市内に取り残される→中堅層の税負担が重くなる→新居を建てるなら岡谷よりも茅野の方がいい→新婚世帯が減る→生まれる子供の数が減る→少子高齢化に拍車がかかる…。

これらの“負のスパイラル”を断ち切り、そこから脱出することこそが、現在の岡谷市政の最大の課題であることは言うまでもありません。

そのための具体的な政策と処方せんを私たちは用意しています。しかし、残念ながら予定の紙面が尽きてしまいました。具体的な施策のご紹介は次回に譲ることにします。

ただ、“負のスパイラル”から脱出するための基礎条件は、「共生」と「協働」の努力にかかっており、そのためには“人の和”こそが必要不可欠だということだけは言っておきたいと思います。

陰湿な「足の引っ張り合い政治」を続けている限り、未来への「希望」は見えて来ません。

私たちは現在、庶民の声を行政に反映させる参加民主主義を深化させるために、「みんなで作るマニフェスト運動」に取り組んでいます。ぜひ、皆様の知恵やアイデアをお寄せ下さい。お待ちしております。